

か ね の 音

84

景気回復 99 という名の たかり

一向に回復の兆しを見せない景気。五年も六年も適切な対応を怠っている間にアジアの国々もおかしくなつた。本来なら日本が経済環境を解放し、アジア各国からの輸入を受け止め、その国々の経済を支える役目を果たさなければならぬのに、世界の中で役目を放棄し、「公共事業」という名で、自分たちだけの快楽を求めた。その結果、今日の世界は日本を見直す動きが出ている。端的に言つて、日本という国を買い被り過ぎたという反省が始まっている。自分だけの快楽を求め、国際社会に於ける役割を果そうとしない国、という見方に変わりはじめている。

戦後五〇年、この国は「官民一体」となつて廃虚の中から立ち上がった。少なくとも多くの国民はそう思っている。政治家も、企業の経営者も、そして一般の市民（特に年配の人たち）もそう思っている。だが、はたしてそうであるのか。自分たちが真剣に考え模索して、この難

難を切り開いてきたのだらうかと思

いたくなる。確かに国民は必死に働いた。時代の追い風も幸いしたが、コスト体質の低さが、国を挙げて一丸となつて行動することを支援した。

一方では、当時急速に接近したソ連から日本を引き離すために、アメリカは自国の広大な市場を提供した。日本の産業を立ち上げさせ、貧困から抜け出すことで、共産主義が広がるのを避けようとした。戦後の復興についてこういふ見方も可能である。また、防衛の責務をアメリカに肩代わりしてもらつたことで、この国は、全ての資産、資源を有効に投資できたことも幸いした。

またこの間の循環的不況も、有効需要の喚起というケインズ政策が機能した。いわゆる土木・建築工事を中心とした「公共事業」で立て直してきた。これこそ「景気対策」の原形である。循環のなかで落ちてきた景気の風船を、とにかく下から団扇で煽ぐのである。そうするとまたしばらくの風船は浮いている。経済の右肩上りの状態がそれを受け入れてきたとも言える。だがこの方法も、円高不況から平成不況に入ったところで行き詰まった。

この五〇年間、日本人は、政府（お

上）に頼る習慣を身に付けてしまった。何か困つたことが起きると、すぐに政府に対して「何とかしてくれ！」という合唱が始まる。時には「何とかしろ！」という声になる。「景気対策」という言葉にそのことが凝縮されている。つまり、経済活動のルールや消費が恒常的に回る仕組み、新しく事業を起こすことに對する支援の仕組みなどには手を突かず、とにかく腹が減つたのだから、食糧を配給しろと、当座の対策」を求めてしまふ。だだをこねれば食べ物が出てくるものだから、国民も癖になつてくるのかも知れない。だから、「ODA」に於ても、同じ発想しか出てこない。

街角インタビューでも、何の躊躇もなく「景気対策」が口から出てくる。この事が「たかり」と同じであ

ることに気付いていない。かつて、ケネディ大統領の「政府に何を求めるかではなく、国に対して何が出来るかを求めよ」と言葉を思いだす。今、求められているのは、將にこの姿勢なのである。景気の先行きが不安になると、企業の経営者はもちろん、労働者も一緒になつて「景気対策」を求めるが、そこには何の疑念も挟まっていない。当然の要求だと思つているのである。

か、ニュースに敏感になつてい

国が沈没しないために、我々が出来ることを考え、その中で邪魔になる規制があればそれを撤廃することを求めるべきなのである。法律や規制は、三〇年も経てば世の中に合わない。だがそのことに声を上げなければ何も変わらない。そこに手を付けない限り、「景気対策」しか方策は見つからなくなる。

そのよつな大人の姿を見ている若者も、自分の人生の夢を描けないから、どつしても利的になつてしまふ。「学校教育」も、人生の夢を描くのを手伝つてくれない。利的になるほど仕事に就けるチャンスが狭

包んでくれるよつに思えるのだらう。でもそうしているうちに、何時しか地べたに這いつくばる運命を引き寄せてしまふ。若者の凶悪犯罪や、弱者を狙つた若者の犯罪が多くなつているのも、無関係ではなさそ

めてしまふ。そして、どうせ自分なんか・・・と足元しか見なくな

アジアの経済危機に臨んで、世界が日本に求めているのは「内需振興」である。時代に合わない規制を外し、日本国内で新しい産業を興し、需要を回復し、輸入を増やすことを求めている。だが、この国の政府の手にかかると、なぜか「内需振興策」も「公共事業」のカンフル剤にすり替わる。「規制撤廃」の要求も、日本の国境を跨いだ途端に「規制緩和」に置き変わると同じよ

「景気対策」といふ発想からは、世界が求めている「内需振興」は生まれてこない。たかりの姿勢からは、本当の意味での「内需振興」は実現しない。「景気対策」といふ考えから、経済改革、ルールの改革という考えに切り替えなにかぎり、過去の過ちを繰り返すことになる。

顔を上げて、背筋を伸ばして歩こう。その頭の「角度」だけで考

違つてくる。足元ばかり見ていては、いい考えは浮かばない。先が見えないと諦めるのではなく、それでも社会の中での役割を見出すために、顔を上げて歩こう。



今月の一言

今世の中、右を向いても左を向いても、何だか暗い話題しかない。年配の人は、自分の預金は大丈夫

「顔を高く上げようとしな

顔を上げて、背筋を伸ばして歩こう。その頭の「角度」だけで考

違つてくる。足元ばかり見ていては、いい考えは浮かばない。先が見えないと諦めるのではなく、それでも社会の中での役割を見出すために、顔を上げて歩こう。